

今年はどうなメーデー?

小菅りや子



第87回メーデー

貧困と戦争の根絶を 国政選挙を控えた決起の場に

第87回メーデーは、日本の平和と民主主義が岐路に立たされる下で行われます。夏には国政選挙も控えています。貧困解消と戦争反対を高く掲げ、現政府の暴走を阻止する、大きなうねりを起こしていくことが必要です。

戦前も戦争と 貧困反対

いま、まともな答弁もな

ま、まともな答弁もな

今年のメーデーでは、「暮らしの底上げ」(連合)、「戦争法廃止」(全労連、全労協)が掲げられる姿勢は乏しいと言わざるを得ません。

「対支非干渉(対中国侵略戦争反対)」など、貧困解消と戦争反対が訴えられていました。いわば原点です。

安倍政権は労働者派遣法改悪に加え、過労死を増やす「残業代ゼロ法案」や、違法解雇でもクビ切りを認める「解雇の金銭的解決」の導入を狙っています。

さあ挑戦

クイズメーデー

今年国際メーデーのきっかけとなった、労働者のある闘いから130年。長い歴史をたどりながら、メーデーの意義を考えるクイズに挑戦してみよう!

Q メーデーの発端となったのは、どこの国?

- ①米国 ②英国 ③旧ソ連

メーデーのきっかけになったのは、8時間労働制を求めた米国労働者の闘いです。1日十数時間におよぶ長時間労働に苦しめられていた労働者が1886年5月1日、全米で一斉にストライキ(ゼネスト)に決起。8時間は労働に、8時間は睡眠に、残りの8時間はわれわれの自由にと訴えました。

Q メーデー史上の大事件「ヘイマーケット事件」の由来は?

- ①工場の名前 ②労働者の名前 ③広場の名前

全米でのゼネストの3日後、シカゴのヘイマーケット広場で開かれた労働者の集会で警官隊に爆弾を投げつける事件が発生。組合リーダーらが死刑判決を受けます。8時間労働の要求は世界中に広がり、米国労働者への連帯の意思を込めた第1回国際メーデーが1890年5月1日に各国で開催されました。

Q 日本で最初のメーデーが行われた時代は?

- ①明治 ②大正 ③昭和

少人数によるメーデー茶話会(明治38年)やメーデー記念集会(大正6年)などを経て、日本で最初のメーデーが開かれたのは、世界から遅れること30年後の大正9年。労働運動が厳しく弾圧される中で、約1万人の労働者が東京・上野公園に集まり、失業防止や最低賃金法の制定などを要求しました。

Q 日本でメーデーが禁止されたきっかけは?

- ①米騒動 ②2・26事件 ③太平洋戦争

昭和11(1936)年、青年将校らが首相官邸などを襲撃した二・二六事件で戒厳令が公布され、メーデーは禁止に。以後戦時体制が強まる中で労働組合は次々と解散させられました。日本でのメーデーは前年の第16回を最後に敗戦まで開催されず、第17回となる戦後初のメーデーは昭和21年のことです。

Q 不況とインフレ下で開催された1975年メーデー。ハリポテで苦境を訴えた人物とは?

- ①ルーツ ②刑事コロンボ ③ジャッキー・チェン

物価高が続く75年のメーデー参加者は全国で236万人。都内の会場では当時人気のテレビドラマの主人公「刑事コロンボ」のハリポテが「ウチのカミさんがネー、物価の値上げで生活が苦しくなる一方だと言っくんですよ」と嘆きました。この年11月には交通を中心に8日間の「スト権スト」が行われました。

Q 「メーデーが祝日」は世界で何カ国?

- ①20カ国 ②50カ国 ③80カ国以上

メーデーは国連などが定める国際デーとして、現在80カ国以上で祝日とされています。日本のように休日になっていない国は少数派。このため労働組合は以前から「メーデーを国民の休日」と要求してきました。働く者の生活と権利を守るため、世界の人びとと心を合わせるメーデーの祝日が待たれます。

路上からの声

市民がつかねばれば政治は変えられる。3月29日、国民の半数が反対という状況は変わらないまま安全保障関連法【戦争法】が施行されました。28日、29日には全国での抗議行動、国会前では戦争法廃止の総がかり行動実行委員会とSEALDsが呼びかけて3万7000人による抗議が行われました。

強行採決のときには、国民に説明をして理解を得ると言っていた安倍首相は、法律が施行されるこのタイミングでも説明をしていません。それどころか自民党の谷垣幹事長は、その日の記者会見で「終わったことは蒸し返すな」と言う始末。何のための法律なのか

疑問に思う人、これからこの国はどうなるのか不安を感じる人、おかしいことにはおかしいと怒りを上げる人、それらの声を傾けない政治家。進んでいるのは国民の政治離れではなく、政治家の国民離れ。一体どこを見て政治を行っているのか。戦争法は人の命を大切にしない政治の一つの

姿です。昨年夏以降の戦争法反対運動は、新しい「民主主義のカタチ」「抵抗のカタチ」として全国へと広まっています。私たちの声は、「選挙に行ける範囲のことを続けよう」と4月末の衆院補選や夏に予定される参議院選挙で、野党共闘など目に見える形での

変化を生んでいます。民主主義に観客席はありません。政治はとこまでも私たちの生活と地続きです。路上で、選挙で、私たちの生活に根ざしながらできる範囲のことを続けよう。この国の進み道を決めるのは、私たち一人ひとりで。【田崎遊 書記局】

